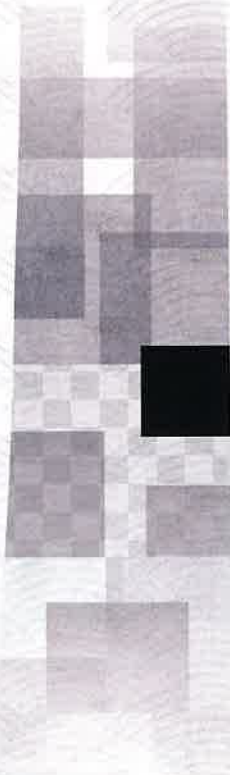


NBF

公益財団法人 日本舞踊振興財団

Information

No. **61**
2023 NEW YEAR




目次

- ▶ 名手訪問 / 対談 今田 美奈子 氏 -第2回-
(洋菓子研究家/食卓芸術家)
- ▶ 特別会員御芳名
- ▶ NBF活動報告・行事予定
- ▶ 日本舞踊紙上講座 / 日本舞踊の歴史を振り返る③⑦
- 勸進帳の系譜① -
東京大学名誉教授 古井戸 秀夫 氏

名手訪問 — No.60に続く —


— 対談 —



 今田 美奈子 (洋菓子研究者・食卓芸術家)


 西川 均 (公益財団法人 日本舞踊振興財団 業務執行理事)

[敬称略]


 西川 3年前にナチュラルローソンから先生のお名前を冠したクリスマスケーキが発売されましたよね。コンビニで先生のケーキ?と驚きました。




ナチュラルローソンで販売された
今田美奈子先生監修のクリスマス
ケーキ。
2021年「プリンセスの舞踏会」

 今田 はい。ナチュラルローソンでのケーキの販売は知人の紹介でした。コロナが始まる前のことでナチュラルローソンは、高級ワインなども置き始めていたんです。ケーキは6~8人前の小ぶりなもの、今田美奈子プロデュースで材料は全部最高の材料を使って頂くことで、6,000円での販売になりました。担当者の宣伝の努力もありますが、お客様の目についたんですね。あつという間に予約・完売だったんです。6,000円ですから、当時の百貨店より高いのに。でもそれがまた功を奏したんです。そしてバレンタインにはザッハトルテということになりました。そのうちに、ローソンの竹増社長が私と会いたいと仰って。私は伝統の最高品質のお菓子を販売していただけるようならばあらゆる所で、素晴らしい良い機会をいただくことになるとお伝えしました。それはナチュラルローソンさんが挑戦して下さったおかげです。今はときどき季節のお菓子を出しながら、

クリスマスは今回で4年目。時代の声を聞き『これだ』と感じたら時代の波に乗って挑戦することが大切だと思っています。

 西川 フランスにお城を所有されていたときのお話を聞かせていただけますか。

 今田 1990年から18年間、中世ルネッサンス文化、ヴァロア王朝の貴族文化発祥の地ロワールに<ロゼール城>を所有しました。城主となってヨーロッパ



フランス「ロゼール城」

上流社会の文化や芸術に触れる場として国際交流を行ったことで、プロトコール・マナー（国際儀礼）の必要性を強く感じました。ご存じのようにヨーロッパではお砂糖を使わないお料理が次々と出て、最後にお砂糖をたっぷり使ったデザートを出すんです。皆さんが緊張している所で、最後に見た目も綺麗なお菓子のお砂糖の効果によって、脳の疲れがとれリラックスして思考が夢の方に行き心がほっとするという身

体的な要素を利用しているのが外食外交です。



ショートケーキの発祥と言われる
「莓のタンバル」



オーストリアの銘菓
「カルディナルシュニツテン」

ヨーロッパの伝統というものは、ベルサイユが栄えたということもありフランスが中心です。有名な貴族の世界が終わりつつあった時、一般の人々が這い上がっていく時代。外食外交の場で恥をかくことが一番恥ずかしい。実力者は恥をかきたくないから形式を決めちゃうわけです。公式の晩餐はフランス料理なのだから洗練されたフランス料理のマナーだけは知っておきたいということになるわけです。公式、正式の晩餐はトップの方たち、リーダーが世界中から集まってきますから、共通のマナーを確立するようになったのです。



シュガーデコレーション
「クリノリンレディ」



(著書1)

そこで手順だけでなく精神性も含めて教えるサヴォアール・ヴィーヴルというものが出来ました。アメリカのフィニッシングスクールというのは、言葉遣いや歩き方まで教えるお嬢さんのための教育です。フィニッシングスクールのフランス版サヴォアール・ヴィーヴルとは人生を豊かにする教育の場なので、年齢に関係なくお年を召していてもサヴォ

アール・ヴィーヴルを教わりに行ったりするのは。そういう学びの場があることを知り、お城をただのお城じゃなくてサヴォアール・ヴィーヴルの学校にしようと思いつき、そこで国際的な学校にしてみました。それは私の第2の人生でした。



西川

それは素晴らしい発想でしたね。



今田

親日家でいらしたフランスのシラク大統領が来日された時に、フジテレビが主催の「フランス祭」にいらっしゃることになり、ベルサイユ宮殿全景をお菓子で再現したんですね。テーブルのセットもベルサイユ宮の18世紀の食卓芸術を展示しました。

シラク大統領にお会いしていただきました。「フランスの私のお城でサヴォアール・ヴィーヴルをやっています。フランスが大好きでお世



バステイヤージュ作品
ヴェルサイユ宮殿の敷地内にある
「愛の神殿」

話になったので、フランスの洗練された世界共通の教養を日本で紹介しています。」とお伝えしたら、シラク大統領はとても喜んでくださって、フランスの文科大臣を紹介くださった上、私をフランスにお招きくださったんです。食卓芸術家として、2003年に《芸術文化勲章オフィシエ》という勲章を頂戴しました。勲章の授与式はTBSで取材をしてもらったり、生徒も30人ほど駆けつけてくれました。



西川

素晴らしい賞をお受けになられたんですね。フランスとの縁が深くなったことで新たにお気づきになられたことなどはありましたか。

今田 そうですね。ヨーロッパのものをみんなが、本物と思って崇拜する理由がわかったように思います。お城を持っていたときにはいろんな近隣諸国の貴族の方をご紹介して下さる方も多く、色々な貴族の方々にお会いしましたが、今振り返ると大きな発見がありました。今は途絶えてしまったメディチ家がヨーロッパの文化に与えた影響が大きいということです。イタリア貴族社会のメディチ家、最後に残ったアンナ・マリア・ルイーザ・デ・メディチというお姫様は、メディチ家のすべての財産をトスカーナ大公国に贈与しました。



メディチ家の大紋章



アンナ・マリア・ルイーザ・デ・メディチ

それによって今でもフィレンツェにメディチ家の貴重な芸術品、建物、コレクションが残り、また彼女が『誰でも見たい人が自由に見て称賛出来る状態にすること』という条件をつけたことで、私たちもその貴重な品々を目にすることができているのです。トスカーナ地方のロレンツァ・デ・メディチ夫人と知り合い、夫人のサヴォアール・ヴィーヴルで色々なお話を聞いたときに、なんでヨーロッパがそんなに世界の人々の憧れになったのか、その根底にはメディチ家の存在が大きいということが解りました。メディチ家の全盛時代は15世紀、16世紀、フランスにお嬢さんが3人お嫁にあって、フランス王フランソワ1世がダビンチを呼んだりますけど、ヨーロッパ文化の一番の基はイタリアなんです。メディチ家も元

々は農家でした。広いハーブ畑等を所有し多くの薬草を持っていたそうです。そして黒死病が世界中で流行ったときに、今のように化学や医学の発展もしていないなか、そのハーブ園の薬草で治し、莫大な富を築きました。フィレンツェの旧都市に多数あるメディチ家の所有だった建物には、家紋のデザインされた丸薬が6粒の文様がついています。それほどお薬で儲かったわけです。ご先祖は、病気がおさまったあと、そのお金で銀行を作り、その銀行も成功しました。その財の基になるのは、バチカンだったという話が印象に残っています。メディチ家の銀行が成功し、そこで財を築くと、これは世の常ですけどもたいい3代目でダメになるか続くかという分かれ目になるわけ。だいたいそのあとの方っていうのがお殿様になっちゃってダメになることが多いんです。けれども、メディチ家の子孫のお坊ちゃんは、財力でビジネスを伸ばすだけではなく、文化と心の中の見えないものを大切にすることに目覚めたのです。それはゆとりのある人にしかできないことです。芸術家の保護者になって、お金をその人達の育成に使い、豊かな人生を送らせる。それによってラファエロやダビンチなどの一連の芸術家たちが育ち、だからフィレンツェに作品がいっぱい残っているんです。建築、絵画、彫刻等多くはマルチ芸術家でした。



西川 芸術の上でメディチ家の果たした役割というのはとても大きく、メディチ家の存在がなければ素晴らしい芸術作品が生まれることもなかったかもしれないですね。



今田 そうですね。でも1979年、世界遺産決定を巡ってはイタリアがフランスのシャルトル大聖堂に負けちゃったんで

すよ。それでフランスがイタリアを超えたと宣伝になったわけです。私はシャルトル大聖堂の館長にもお会いして、ゴシック建築の全部を見せてもらい、私の生徒にも利益を得たら、シャルトル大聖堂へ寄付をすることを勧めました。シャルトル大聖堂というフランスを代表する文化を大切にし、修道院のことを学びたいという思いを館長に伝えると館長が気に入って下さって、修道院でご馳走にあずかるという機会がありました。



フランス「シャルトル大聖堂」世界遺産

まず最初の応接間で椅子に座ると、「そこはエリザベス女王がお座りになったところですよ」と仰るので、その横に座ったら、そこもまた「何々大統領が座られた」「こっちは何とか妃がお座りになった」と。社交は修道院のような安心できる場所で行われていたという事が分かりました。イタリアからフランスに外交文化が移ったのは16世紀。メディチ家の14才のカトリーヌ妃が政略結婚でフランス王フランソワ1世の次男アンリ2世に嫁いだ時、莫大な持参金と千人もの従者を従えていたそうです。イタリアルネッサンス最盛期のフィレンツェからあらゆる職人を連れていき、香水やパラソル、ナイフとフォークによるテーブルマナー、マカロンやアイスクリームなどのスイーツ類など洗練されたイタリア文化をフランスへ伝え、フランスを美食の国へと導いたのです。彼女が美しく改築したロワール地方のシュノンソー城は、世界遺



フランス「シュノンソー城」世界遺産 カトリーヌ・ド・メディシス

産としてベルサイユ宮殿に次ぐ人気の観光地となっています。その地に私は小さいけどもお城を所有し、フランスの皆さんの応援を得たんです。私は心からフランスを崇拝し、日本の色は一切みせないように気を付けました。国際外交の学びの場としてフランスの洗練度、時代の感覚、センスを取り入れました。基本であるイタリアのジビエ料理もフランスでは洗練された小さなお肉になって提供されるようになるわけです。だからそのような流れがあり今はヨーロッパの中心はフランスなんです。



西川

イタリアの一人のお姫様がフランス文化の礎を築いたとは知りませんでした。



今田

接待が国際になると、フランス料理は定められたマナーがあるから安心、ということからお料理はフランス料理を提供するけれども、どこの国でも最後のデザートだけは自国のお菓子を出すのです。ドイツが一番最近で20世紀になってからです。ドイツは綺麗に飾った大きなデコレーションケーキをみんなで分けるのがドイツの文化なんです。なぜかというとうみんな疲弊して困った時代のあと、幸福になって裕福な気分を楽しむのがおもてなしの心なんです。フランスのおもてなし文化の基礎を作ったのは、中世イタリアのルネッサンスです。その時テーマが、ギリシャ悲劇であった事に気がきました。



ギリシャの悲劇が、大衆を呼び込んで喜ばれ、食べ物とどう繋がるか。現代ではギリシャ悲劇がオペラに代わりました。一般市民の最高のおもてなしは、オペラにお招きすること。オペラはたいいて夕方からで、終わってからの食事となります。だいたいフランスでは9時過ぎくらいからレストランや自宅へお招きし夕食となり、その時の話題は自然と見終えたばかりのオペラが中心となります。オペラの筋はとても

姫様セットを召し上がってくださるんです。本当に嬉しいことです。



「サロン・ド・テ・ミュゼ・イマダミナゴ」メニュー
「マリーアントワネット妃のお菓子たち」




フランスのパリにある オペラ座「ガルニエ宮」




(著書2) マリー・アントワネット

単純で、歌舞伎と同じでどこで誰が死んで悲しむとか復讐をするなどと筋が決まっています。ほとんどが悲劇なんです。オペラを観て同じ所で泣いたり笑ったりしたあと、お腹のすいた状態で食卓を囲んだ際に、「今日のオペラは良かったわね。」と共感を得て、招いてくださった方にお礼を言いながら、《オペラの主人公はかわいそうだったわね、でも私たちはこうやってこんな年になっても、まだ元気でやっている。お友達にこうして呼んで頂いて、元気で健康でお食事も一緒に出来るなんて幸せね》と皆が幸福感を共有するのです。オペラが悲劇だったから自分の置かれている状況を幸せに感じる、それと同じように、日常の生活の中で幸せを感じ感動してもらいたい、というのが私のコンセプトなんです。

私の本を読んだりしたお母さまたちがお嬢さんと一緒に、飛行機や新幹線で私のサロンを訪れます。そして「マリーアントワネットのお茶会」というお

 西川 2020年に世界中で新型コロナウイルスが発症し、全世界の時間が止まったようになってしまいましたが、先生はどのように受け止めていらっしゃいますか。

 今田 やっとヨーロッパも日本も、ちょっとずつ以前のような日常が戻って来ています。そのような中、戦争も始まってしまい大変な時代ですが、1350年ころヨーロッパでは黒死病が流行し、人口は2/3になってしまったとのこと。そこから新しい機会や創造性や富が生まれ、ルネッサンスの芸術や文化が開花し、近代ヨーロッパが始まったと言われています。困難から立ち上がる時にみんなが一所懸命になって、上へ上へと目指したというわけです。今、まさに置かれている状況は同じといえるので、これからどこまで世界の平和と日本の発展に向け人々に幸せを届けられるかということが現代のルネッサンスです。そのために頑張れるかが私の集大成の目標です。

私には大きな野心がありまして、ヨ

ヨーロッパでの経験を活かしながら、近隣諸国とも仲良くし、新しいルネッサンスをアジアの人々とも喜び合い、世界を制覇することです。日本には信頼があるんです。能や歌舞伎、日本舞踊は勿論のこと、茶道や華道など日本には数多くの文化あります。それは古くから、宗教や近隣諸国から影響を受けたりしたという歴史的背景にもっとしっかり目を向けて、近隣諸国の人々に伝え、世界に伝え、そしてそちらの新しいものを取り入れる。それが新しいルネッサンス。世界の中心がヨーロッパだけではない、というものを培うことが必要である、と考えています。そこを目指しながら、この先の新しい時代をどう改革して皆さんに世界平和と幸せを、どのような形で感じて頂くか。日常の中から非日常を文化にしていく部分をどういう風に表現してゆくか、これが私に与えられた「もてなし文化を完成させる」という使命ではないかと思って居ります。

それを集大成の仕事とするための場所と形態と内容がどう構成されたいのか、とても個人の力だけでは難しく、共鳴してくださる方々からの応援を頂きたいと思って居ります。

西川 先生が一つ一つの出会いを大切にされ、またいつでも運命の声に耳を澄ませ、挑戦を続けていらしたのだということがよく分かりました。先生が礎とされていらっしゃる「伝統は永遠の流行」との言葉を、私も深く胸に留め置きたいと思います。

今田 最後にやはり一緒にやる仲間がいないとダメですね。私を慕ってくれる方々、共に学びたいと思って下さる方々の気持ちを大事にしています。一般の方でも興味をお持ちの方々に楽しんで頂き、もっと広がる形を作っていく

いですね。日本舞踊はギリシャ悲劇やオペラと同じで、身体を使って心を表し、それが人々に感動を与える、世界に通じる芸術です。エンタテインメントというのはみんなが求めているものですから。どこかの場所で機会が出来たら喜んで、おもてなし文化としても諸外国に日本舞踊をご紹介させていただきたいと思います。ご一緒に夢を実現できる機会を念願し、日本舞踊の益々のご発展をお祈りいたします。

西川 今日とは壮大なるスケールのお話をお伺いさせていただきありがとうございました。



profile いまだ みなこ 今田 美奈子

ヨーロッパ各地の国立の製菓学校やホテル学校で学び、「今田美奈子食卓芸術サロン」(今田美奈子お菓子教室)を主宰。テーブルアートで世界で初めてフランス政府芸術文化勲章受章。スイスやドイツの国立製菓学校より金賞受賞。日本ペンクラブ会員。一般社団法人「国際食卓芸術アカデミー協会」会長。



サロン・ド・テ・ミュゼ イマダミナコ (新宿高島屋4階)

ミュージアムスタイルのティーサロン。お茶やお菓子をお楽しみいただける優雅な空間です。



(著書1) 「正統のテーブルセッティング」講談社
(著書2) 「貴婦人が愛した食卓芸術」角川書店
その他にも多数の著書があります。





勸進帳の系譜 ①

東京大学名誉教授

古井戸 秀夫



歌舞伎十八番の内『勸進帳』が書き下ろされたのは、天保十一年（一八四〇）三月江戸河原崎座でした。狂言作者は三世並木五瓶、長唄の節をつけたのは四代目杵屋六三郎、振付は四代目西川扇蔵、武蔵坊弁慶に扮した五代目市川海老蔵（七代目團十郎）は数え年で五十歳の節目でした。團十郎代々の相続百九十年の「寿（ことぶき）」を記念して配られた摺物には、家に伝わる伝書は「蠹（シミ）」に喰われて読めなくなっていたものをようやく補綴したものだと書かれています。それはあくまでもカムフラージュでした。表向きは認められていなかった、能の大曲『安宅』をそのまま歌舞伎に仕立て上げたものでした。『勸進帳』という外題も、能の観世流の主習いの小書（こがき）を流用したものなのです。七代目團十郎の大胆なこの試みが明治の御代に松羽目物の流行を呼ぶことになるのです。



(資料1)

河原崎座の正面に掲げられた海老蔵の口上の看板には、「勸進帳の儀は元祖市

川團十郎才牛初て相勤め、二代目團十郎栢莚迄は相勤め候」とありました。

『続歌舞伎年代記』の著者石塚豊芥子は、『勸進帳』のルーツを探り、『星合十二段』（元禄十五年二月）とその続編『新板高館弁慶状』（同年七月）に辿り着きますが、前者は元祖團十郎の武蔵坊弁慶と女形の沢村小伝次の牛若丸の「五条の橋」（『役者江戸桜』）で、後半になると團十郎は二役で伊勢の三郎に扮していました。武蔵坊弁慶のルーツではあっても、『勸進帳』のルーツとは言えないでしょう。『新板高館弁慶状』については、二代目團十郎自身「二人弁慶の役、これまた大きに当り」（『金之揮』）と記録しています。これを踏まえて七代目團十郎は「二代目團十郎栢莚迄は相勤め候」という口上を述べたのでしょう。

能界の明治三名人のひとり、梅若実の談話が伝えられています。弓町こと観世流二十一家元、観世左近清長が初演の『勸進帳』をお忍びで見物にきました。幕が開くとすぐに弓町がフッと吹き出し、笑っては悪いと思ったのでしょう、扇子を顔に当てて笑いを堪えていたのです。團十郎がその訳を聞いても、観世の家元は答えない。意見を求められても、ただ「結構だ」というばかりでしたので、團十郎も「かりそめにも、あなた様から結構だという御声がかりを戴けば、明日からは好い心持で芝居が出来ます、御

かげさまでセイセイいたしました」と丁寧に一礼をして退いたという。当時、家元に随行していた梅若実少年の伝える実見譚でした(伊原清々園『團十郎の芝居』)。

観世の家元家には、かつて七代目團十郎が使ったという弁当箱が伝えられているとも言います。本物の能を見て研究することが許されなかった團十郎は、職人姿で観世の舞台に忍び込んで『安宅』を盗み見をしました。そのときに、あまりに夢中になって弁当箱を忘れて帰った、というのでした。その弁当箱が立派な蒔絵の重箱であった、とも伝えられています。伊坂梅雪の『勸進帳考』に伝えられる創作の秘話でした。



(資料2)

能『安宅』では立衆(シテツレ)の義経の郎党のことを「同山(どうやま)」と呼んでいます。八人または十人と大勢が出て、富樫を圧倒するのです。「勸進帳」の読み上げも、ほんらいは弁慶一人ではなく同山が同吟で謡いました。それを弁慶ひとりで読み上げるときに「勸進帳」の小書が付きましたが、その演出が定着を見てからも観世流では「勸進帳」の小書が残されたのです。團十郎はその郎党を四人に絞り、代わりに富樫の番卒を三人に増やしました。長唄のへ方々は何ゆえに」で弁慶が勢い込む四人を抑えながら、富樫らを止めるドラマチックな展開は「押合(おしあい)」と呼ばれる新たな見どころになったのでした。

「勸進帳」の読み上げも、能では大小の鼓のリズムに乗って流暢に謡う聴かせどころですが、歌舞伎ではそれを淡々と抑え、代わりに「山伏問答」という富樫

と弁慶の掛合のせりふを増補して成功を見ました。團十郎はその当時、講談界の三名誉とされた人気者、二代目伊東燕凌を自宅に招き、その口調を取り入れたものだと言われています。七代目は、他にも藤田吉龍の神道講釈や講釈の塚田太琉の『義士伝』などでも好評を博し、落語家でも門弟でもあった三升亭小勝の真似も得意にした、話芸の名手でした。



(資料3)

長唄も名曲で、へついに泣かぬ弁慶も」からへ判官御手を」と続き、へあるときは船に乗り」と往事を偲ぶ弁慶の物語になる展開は、杵屋六三郎の会心の出来栄えと言ってもよいでしょう。大杯を干した弁慶が、へ一度まみえし女さえ」と酔態になる西川扇蔵の振付も、歌舞伎ならではの面白さでした。幕外の「飛び六法」に至るまで、息をも継がせぬ勢いで観客を圧倒するのです。

(資料1) 歌舞伎十八番の内「勸進帳」

初代 歌川国貞 画、天保11年(1840)/国立音楽大学附属図書館所蔵

(資料2) 元禄市川團十郎百九十年の寿歌舞伎十八番の内「勸進帳」初代 歌川国貞 画、天保11年(1840)/国立音楽大学附属図書館所蔵

(資料3) 歌舞伎十八番「勸進帳 山伏もんどう」小川半助 記、河原崎座 嘉永2年(1849)上演 富樫 市川小團次、弁慶 市川團十郎/東京大学総合図書館所蔵



日本舞踊振興財団では、特別賛助会員制度を設け、
下記の方々にご支援をいただいております。

是非ご賛同お願い申し上げます。

-
- 会費 1口 10万円(1年間)
 - 特典 会報のご送付
会報・公演プログラム等にご芳名掲載
財団主催イベントにご招待
-



飯田 信子 (飯田不動産 代表)

東京信用金庫 (理事長 半澤 進)

飯田 良枝

西川 井扇

(有)かつら大阪屋 (代表取締役 安藤 拓孝)

(株)ビデオフォトサイトウ (代表取締役 海老原 利明)

歌舞伎座舞台(株) (代表取締役 長坂 誠一郎)

(株)ホテルオークラ東京

(有)ギャラリー竹柳堂 (代表取締役 藤澤 繁)

藪本 俊一 ((株)古美術藪本 代表取締役)

松竹衣裳(株) (代表取締役 武中 雅人)

山本化学工業(株) (代表取締役 山本 富造)

(株)瀧川峰晴堂 (代表取締役 瀧川 明行)

(株)吉 岡 (代表取締役 清水 喜重郎)

[敬称略]



財団の趣旨にご賛同いただける方は財団事務局までご連絡ください。
特別会員についてご説明します。その上で、ご希望の方には申し込み
書類をお送りさせていただきます。

財団事務局 TEL03-3354-5496

NBF活動報告

◆ 新宿区「こども体験プログラム」-日本舞踊-

日時:令和4年8月2日(火)~8月4日(木)
 会場:新宿区四谷地域センター 多目的ホール
 内容:新宿区主催のこども向けの体験教室
 主催:新宿区

◆ 新宿区日本舞踊鑑賞教室

日時:令和4年11月8日(火)
 会場:新宿区立柏木小学校 体育館
 内容:5年生を対象に日本舞踊についての簡単なレクチャーを行い、その後日本舞踊の一部を上演した。
 主催:日本舞踊振興財団

◆ 新宿区日本舞踊鑑賞教室

日時:令和4年12月15日(木)
 会場:新宿区立早稲田小学校 体育館
 内容:5年生を対象に日本舞踊についての簡単なレクチャーを行い、その後日本舞踊の一部を上演した。
 主催:日本舞踊振興財団



公益財団法人日本舞踊振興財団

「NBF」 No.61

発行 公益財団法人日本舞踊振興財団

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町8番12号

発行日 令和5年1月

NBF行事予定

◆ 文化庁伝統文化親子教室
 -新宿区日本舞踊こども教室

日時:令和4年10月~令和5年1月
 会場:新宿区四谷地域センター 多目的ホール
 内容:日本舞踊の簡単なレクチャーの後日本舞踊の一部を稽古する。

◆ 第55回講演会

日時:令和5年1月28日(土)
 会場:中央区日本橋公会堂
 講師:松竹衣裳(株) 細田周作氏

◆ 新宿区日本舞踊鑑賞教室

日時:令和5年2月16日(木)
 会場:新宿区立富久小学校 体育館
 内容:児童を対象に日本舞踊についての簡単なレクチャー及び日本舞踊の一部上演。
 主催:日本舞踊振興財団

◆ 幼稚園おどり教室

日時:令和5年2月21日(火)
 会場:東洋英和幼稚園
 内容:未就学児及びその保護者を対象として日本舞踊に親しんでもらう企画。

◆ 狂言教室発表会

日時:令和5年3月14日(火)
 会場:名誉会長 西川 扇蔵 宅 稽古場
 内容:一年間の稽古の成果を発表する。

◆ 宇都宮市日本舞踊鑑賞教室

日時:令和5年6月16日(金)
 会場:宇都宮市文化会館 小ホール
 内容:宇都宮市内の小学校の児童を対象とした事業。



公益財団法人 日本舞踊振興財団

〒162-0066 東京都新宿区市谷大町8番12号

TEL:03-3354-5496

FAX:03-3353-5634

<https://nihonbuyo.or.jp>

E-mail:office@nihonbuyo.or.jp

